

子どもの読書活動推進 ~発達に応じた取り組み~

生涯にわたって読書活動に親しみ、読書を楽しむ習慣を子どもに身に付けさせていくには、乳幼児期から、子どもの発達段階に応じた読書活動を行うことが重要であると言われております。「子供の読書活動推進に関する有識者会議 論点まとめ」（令和4年12月）では、子どもには、以下のような読書に関する発達段階の特徴があるそうです。

<就学前の時期：おおむね6歳頃まで>

乳幼児期の子どもは、周りの大人から、たくさんの言葉をかけてもらったり、自分なりの言葉や話を聞いてもらったりしながら、言葉を少しずつ獲得していきます。また、絵本や物語を読んでもらうことを通じて絵本や物語に興味を示すようになり、さらに、様々なことを体験しながら、イメージや言葉を豊かにし、絵本や物語の世界を楽しむようになります。

<小学生の時期：おおむね6歳から12歳まで>

低学年では、読み聞かせを聞くだけでなく、一人で本を読もうとするようになり、語彙の量が増え、文字で表された場面や情景をイメージできるようになります。

中学年では、最後まで本を読み通すことができる子どもとそうでない子どもの違いが現れ始めます。読み通すことができる子どもは、自分の考え方と比較して読むことができるようになるとともに、読む速度が上がり、多くの本を読めるようになります。

高学年では、本の選択ができ始め、その良さを味わうことができるようになります。好みの本の傾向が現れるとともに読書の幅がひろがります。

<中学生の時期：おおむね12歳から15歳まで>

多読の傾向は減少し、共感したり感動したりできる本を選んで読むようになります。自己の将来について考えるようになり、読書を将来に役立てようとするようになります。

私たち大人は、各時期の子どもの読書における特徴を捉え、それぞれの立場や場所（家庭、学校、地域）で、子どもの読書環境を整え、子ども達と本との素敵な出会いを準備していきたいものです。

図書館で『TRPGをやってみる』（第9回） 8月16日 土曜日 開催

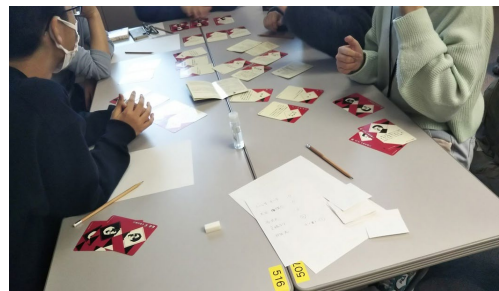
TRPGとは、テーブルトーク・ロールプレイングゲームの略で、ゲーム機等のコンピュータを使わずに、紙やペン、サイコロなどの道具を用いて、参加者の会話と専用のルールブックに記載されたルールに従って遊ぶ対話型のゲームです。

参加者が会話をしながら架空の世界を演出し、登場人物を演じ、共に課題を解決しながら物語を作り上げていく卓上の遊びです。

福岡市総合図書館では、中学・高校生を対象としたイベントを定期的で開催しています。今回は、8月16日土曜日の開催です。興味のある方は、参加してみても、どうでしょうか。

※ 詳しくは総合図書館のホームページをご覧ください。

<前回のゲームの様子>



令和7年度 小学生子ども読書リーダー養成講座

先月号で紹介しました福岡市子ども読書活動推進計画（第4次）では、学校での「子ども読書リーダーの育成」が重点として挙げられ、小学校と総合図書館が連携し、子ども読書リーダーを養成するとともに、活躍の場を広げていくようにとされています。

そこで学校図書館支援センターでは、本年度も、市内の小学校において、児童の個別端末を活用し、小学生子ども読書リーダーの育成ができるよう動画資料「小学生子ども読書リーダー養成講座」を準備しています。

多くの小学校で、この講座を開催いただき、たくさん子ども読書リーダーを育成すると共に、子ども読書リーダーの活躍の場を設け、学校全体での読書活動を推進していただきたいものです。

市内の小・中・特別支援学校では、18日金曜日から、8月26日火曜日までの夏休みとなっています。今年の夏も猛暑が予想され、熱中症も心配されています。しかし、子ども達にとっては、待ちに待った夏休み。夏休み期間中、子ども達には楽しく元気に過ごしてほしいものです。

また長い休みを利用して、少し長い読みごたえのある本に挑戦したり、図鑑を使って身の回りの自然を調べたりして、読書活動の幅を広げ、大きく成長してくれることを願っています。

【須藤】



8月18日「高校野球記念日」

1915年のこの日、大阪府の豊中球場（豊中グラウンド）で第1回「全国中等学校優勝野球大会」が開会しました。1924年の第10回大会から阪神甲子園球場が会場になり、戦後1948年の第30回大会から名称が「全国高等学校野球選手権大会」となりました。現在では「夏の甲子園」などとも呼ばれています。

8月20日「交通信号設置記念日」

1931年のこの日、東京・現在の銀座4丁目交差点や京橋交差点などに、日本初の3色灯の自動交通信号機が設置されました。信号機の灯火は、横型のものは左から青色・黄色・赤色、の順に配列されており、交通安全上、最も重要な赤色が最も視認性の良い位置に配置されています。

トーベ・マリカ・ヤンソン

(1914. 8. 9～2001. 6. 27)

フィンランド生まれのスウェーデン系フィンランド人の画家、小説家、ファンタジー作家、児童文学作家。日本語表記にはトーヴェ・ヤンソンもあります。『ムーミン』シリーズの作者として世界的に有名で、読者層は幅広く、「9歳から90歳まで」とも表現されています。また、フィンランドでは画家としての評価も高く、水彩画や油彩画、雑誌の風刺画や公共建築の壁画など多くの作品を残しています。

黒柳 徹子

(1933. 8. 9～)

東京生まれの女優、タレント、テレビ司会者、エッセイスト。「窓ぎわのトットちゃん」は、自伝的物語で、1981年に講談社より出版しました。同作品は、第5回路傍の石文学賞受賞し、2023年12月14日には同年9月末時点での全世界累計発行部数2511万3862部を記録対象として、「最も多く発行された単一著者による自叙伝」としてギネス世界記録の認定を受けました。

ルース・スタイルス・ガネット

(1923. 8. 12～2024. 6. 11)

アメリカ生まれの児童文学作家。日本語題『エルマーのぼうけん』『エルマーとりゅう』『エルマーと16ぴきのりゅう』の3部作の著者として有名です。この計3部作は10か国語に翻訳され、世界的ベストセラーとなりました。数々の外国語訳の中でも、日本語訳は、ガネットにとって最初の外国語訳であり、印象深いものとなったそうです。

アーネスト・トンプソン・シートン

(1860. 8. 14～1946. 10. 23)

イギリス生まれの博物学者、作家、画家。日本では『シートン動物記』で有名です。挿絵も画家であるシートン自身が描いており100点をこえる挿絵は、物語をいっそう魅力的にしています。また、シートンの著作は全て自身の体験や見聞を基に作られており、そのほとんどはノンフィクション小説といっても差し支えないものです。

図書館員のひみつの本棚 第231回

今月は夏にぜひ読んでほしい、ファンタジー小説をご紹介します。

『霧のむこうのふしぎな町』 柏葉幸子／作 杉田比呂美／絵 講談社 2006年 1300円(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 小低学年★☆☆ 小中学年★★★★ 小高学年★★★★ 中学生★☆☆

高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

夏休みに父親の勧めで、森の奥で迷いながらも「霧の谷」へたどり着いた小学6年生のリナ。

カラフルな家が6軒並ぶ小さな町は、住人たちに「めちゃくちゃ通り」と呼ばれている不思議な場所でした。ピコットさんの屋敷に下宿させてもらうため、町の本屋やおもちゃ屋で働きはじめたリナは、個性的な住人たちと交流していくうちに、居心地の良さを感じはじめます。気弱な主人公リナのひと夏の冒険と成長が描かれたファンタジーです。

<子どもに手渡す時のポイント>

「ファンタジーの名作」と言われ、「夏休みに、ごくごく普通の小学生が、日本のどこかの森の奥にある不思議な町に迷いこむ」という内容のこの作品には、「同じことが自分にも起こるかもしれない」と読者を物語の世界に引き込む魅力があります。

読みやすい文章ですが、最初に方言の会話が続く場面があるので、低学年の子どもに勧める場合には、「最初の部分が少し難しいかもしれないけれど、その後は読みやすくなるよ」等と声かけをして、手渡してほしいです。



通りの名称が出版当時（1975年）の表現から修正され、イラストも変わったこちらの新装版が2006年に出版されました。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手にとってみて下さい。